

大正大学 TAIS PITCH コンテスト_企画書

すべての人に人生の選択肢を！ ゆーすふるプロジェクト

ふりがな	ゆーすふるぷろじえくと		人数	代表者名(所属学部学科、学年)	
チーム名	ゆーすふるプロジェクト		1	氏名:長田のぞみ (心理社会学部 人間科学科 令和5年度卒業)	
エントリー部門		(1) 起業部門 ※最初から事業化をめざす	<input type="radio"/>		(2) プロジェクト部門 ※まずは単発の企画からスタート
エントリー分野		① デジタル・IT分野	<input type="radio"/>		④ 教育・福祉分野
		② エンターテイメント・文化分野			⑤ その他分野
		③ 新商品開発分野			

企画書に必要な6つの項目

必要項目	内容
① 起業/プロジェクト概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 目的（どんな社会や地域の課題解決につながるのか） ✓ 目標（定性目標+定量目標があれば尚良い） ✓ 具体的な内容
② 市場と競合分析	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ターゲット市場と競合の状況について（環境分析などもあれば尚よい）
③ ビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 提供する商品やサービスの内容 （社会へのインパクトはどうか。既存のモデルとの差異点も明確にする。） ✓ 収益モデル(収益源は何か?)
④ マーケティング戦略	<ul style="list-style-type: none"> ✓ メインターゲット(顧客)は誰か ✓ 販売戦略やプロモーション計画
⑤ 運営計画	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 必要な人材・技術や設備 ✓ 財務計画(初期投資額、資金調達計画、収益予測など) ※プロジェクトの場合は費用対効果をシュミレーションできればよい。 ✓ 全体のスケジュール
⑥ その他	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 主なリスクと対策 ✓ 必要な許認可や法的手続き ✓ 起業の長期的な持続可能性やプロジェクトの今後の発展性 ✓ 提案の実現に必要な専門知識やスキル、関連する分野/領域での経験値など ✓ 実現のためのリソース確保状況(支援団体、支援者など)

目次

- ① はじめに
- ② プロジェクト概要
- ③ 若者の性に関する現状(市場と競合分析)
- ④ プロジェクトモデル
- ⑤ 運営計画
- ⑥ その他

①はじめに

① はじめに

プロジェクトに対する意気込み

本プロジェクトは、普段なかなか踏み込めない「**性教育**」がテーマです。
この企画を通して、少しでも多くの方に正しい性の知識を得ることの重要性を知ってもらい、興味をもっていただけたら嬉しく思います。
私が大学生のときからずっと実現したかった活動です。
働きながらにはなりますが、全力で取り組んでいきます。

① はじめに

まずは、プロフィール

長田 のぞみ（ながた のぞみ）

大正大学心理社会学部人間科学科 令和5年度卒業生

実績:

本プロジェクトのアイデアが、一般社団法人 未来教育推進機構 (UMEDAI)主催の「SDGs探求AWARDS2023」にて、学生部門 優秀賞を受賞

所属:

彩の国思春期研究会(ボランティア)

特技:

日常会話程度の手話ができます。
大学時代は手話カフェの運営も行っていました。



2024.1 巣鴨での手話カフェにて



2024.3 卒業式にて

① はじめに

プロジェクトを企画した背景

このプロジェクトを企画したきっかけは、**私が行った卒業論文のアンケート結果**があまりにも**ショックだったから**である。

私は大学生の時、卒業論文のテーマを「性教育」に決め、その論文を執筆するためにアンケート調査を行った。内容は、18～29歳の若者に性交と避妊に関する意識や行動に関して問うものである。大正大学の関係者や私の知人など、341名が回答してくれた。しかし結果は、避妊の正しい知識を持っていない人が全体のうちの2割もいたり、避妊をしない人も2割ほどいたり、悲惨な状況であった。私の周りの若者たちでさえも避妊に関して正しい知識を得られていないという問題視すべき状況であることを知り、私は、

「卒業論文を提出して終わらせるのではなく、この状況を変えるために自分で何かしなくては！」と思い、試行錯誤していた。

そこでたどり着いたのが**「ユースクリニック」**である。

(補足)
卒業論文に関して

① はじめに

(補足)自身の卒業論文に関して

私は、卒業論文「若者の性交と避妊に関する研究 ―若者への性教育のあり方の検討―」を2023年12月に提出した。また、論文執筆のため、若者向けの性交と避妊に関するアンケート調査を行った。

本論文の目的は、

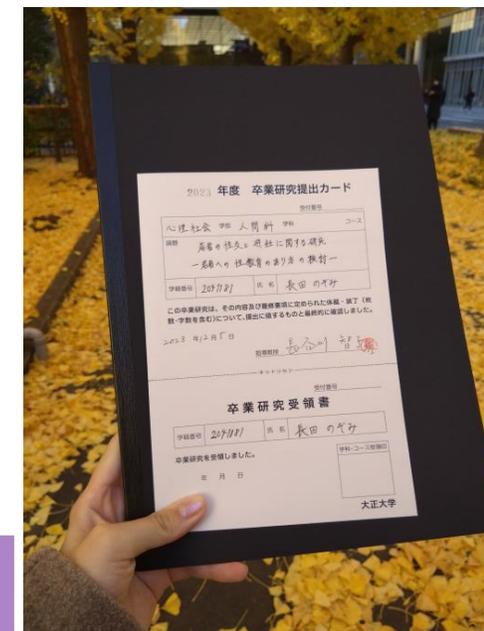
- ①若者の性交と避妊に対する意識と行動の実態を明らかにする
 - ②若者向けにどのような性教育を行ったらよいかを考案する
- である。

アンケート調査の概要は以下の通りである。

調査方法 Microsoft Formsによるオンラインでの質問紙調査
 調査時期 2023年7～9月
 調査対象者 18～29歳の男女の若者341名
 (高校生・既婚者を除く)

- 主な質問項目
- ①性知識に関して
 - ②あなた自身について
 - ③性交と避妊の現状と意思
 - ④性に関する捉え方

回答者数	男性	女性	合計
学生	96	194	290
社会人	21	30	51
合計	117	234	341



① はじめに



「ユースクリニック」とは、スウェーデン発祥で10～20代の若者の様々な悩みを専門家が受け付けてくれるクリニックのことである。

スウェーデンには約250箇所ものユースクリニックが存在する。そして、学校の授業の一環で見学に行くため、9割の若者が利用したことがある施設である。相談事以外にも、避妊具の提供や性感染症検査を行っている。

気軽に足を運べて、相談ができる、性の正しい知識を得られる場所が **日本にもほしい!** と私は強く思った。

しかし、日本ではまだ知名度が低く、性に関する分野はタブー視する風潮がある。

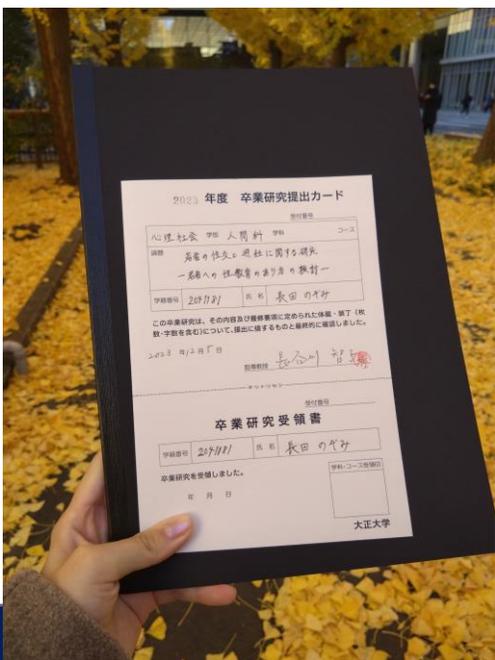
そんな日本でも、**ユースクリニックが根付き、若者が性を身近にオープンに考えられる環境を作れるアイデア**を、今回私は企画した。

(補足)
このアイデアに至るまでの私の経験・実績

① はじめに

(補足)これまでの実績

一般社団法人 未来教育推進機構 (UMEDAI) 主催の「SDGs探求AWARDS2023」にて、 ユースクリニック×カフェのアイデアが 学生部門 優秀賞を受賞しました



<https://sdgs-awards.umedai.jp/library/2024/04/23/2023-student-outstanding2/>

↑ 公式HP

https://www.tais.ac.jp/guide/latest_news/20240328/86577/

↑ 大正大学のHPでも取り上げていただきました



① はじめに

(補足)これまでの経験

私自身、大学で教育や性に関する勉強をしていたわけではなく、専門的な知識は未熟な状態である。そのため様々な性教育の場に足を運び、オンラインで学び、専門家の方々とお話をしてきた。

- ・ユースクリニックイベントに当事者、ボランティアとして3回参加(次ページにて詳細)
- ・彩の国思春期研究会に入会 専門家が講師の勉強会に3回参加
- ・NPO法人ピルコンによる勉強会に2回参加
- ・日本性教育協会の資料室(神保町から徒歩5分)に自身の卒業論文を寄贈

<https://opac.jp.net/Opac/NS1JEYq24WsoCGy N7GNQ WQaeg/8yCBaj5YWqc9JXF1aE8r9ntr8C/description.html>

- ・若年女性のための支援施設である、池袋「わたカフェ」、秋葉原「まちなか相談室」、サンシャインシティ「ぴこカフェ」などを見学
- ・株式会社ネクイノが運営する大阪のユース向け相談施設「スマルナステーション」へヒアリング

私は日常会話程度の手話ができます！
大学時代は手話カフェの運営にも携わっていました。
1つのコミュニケーションとして活かしていけたらと思います。

① はじめに

(補足)これまでの経験

埼玉県でユースクリニックのイベントに当事者・ボランティアとして参加

過去3回実際のユースクリニックのイベントに足を運び、当事者として性の知識を学びながら、若者に必要な経験を提供できるユースクリニックの可能性を実感した。



産婦人科医の先生からコンドームの説明を聞きながらつけ方の練習をする中学3年生



普段は見られない沢山の避妊具と生理用品の展示
使い方はその場で教えてくれる



①プロジェクト概要

①プロジェクト概要

① プロジェクト概要

プロジェクト:

ユースクリニック×カフェ「ゆーすふる」の開設

スウェーデン発祥の、若者の様々な悩みを受け入れてくれるユースクリニックと、足を運びやすく気軽に来てもらえるカフェを組み合わせたい。この施設ができれば、性について相談したい若者は、病院よりもハードルの低い場所として足を運ぶことができる。さらに、相談事がなく、性に関して全く関心がない若者でも正しい知識にふれてもらえ、学び考えるきっかけを与えることができる。

本プロジェクトの目的:

性を身近に、オープンに考えられる環境を提供する

性に関して悩みをもっているが相談できない若者や、性に関して自分事に捉えられず知識を得られていない若者が少なからず存在することがアンケート調査で分かった(参照:②若者の性に関する現状)。そのような若者にも、性を身近に感じてもらうことができ、自分にとって必要な知識として、「性」をオープンに考えられるようになることを目的としている。

本プロジェクトの
最終目標

① プロジェクト概要

最終目標:

すべての人が安心して自分の人生の選択ができる社会を作る

前ページのように、若者が性を身近にオープンに考えられるようになると、自分に必要な知識を身につけられるため、

人生における選択肢が増え、それを自分で選択することができるようになる。

例えば、

- ・今使っている生理用品を変えたり組み合わせたりして、少しでも快適に過ごせるようになる
- ・低用量ピルを使うことで望まない妊娠を防ぎ、仕事や勉強を全力で行う
- ・性別問わず、人それぞれの苦手なことや得意なことを認め合える など

「知らなかった」「そんなこと思いもしなかった」という状態は、時に自分や他の誰かを傷つけることにもなりかねない。最悪の場合、人生を大きく狂わせることもある。

「性の知識は人生において必要なものである」ということをすべての人が認識し、いざという時、安心して人生の選択をできるような社会を本プロジェクトは最終目標に掲げる。

現状の課題

②若者の性に関する現状(市場と競合分析)

② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

まず、日本の若者の性に関する現状を分析した。

私が卒論執筆のために行った2023年7～9月に18～29歳の若者341名が対象のアンケート調査のデータの分析結果から、

日本の若者の避妊に関する正しい知識・行動が 不十分である

という課題が明らかになった。

さらに、望まない妊娠・中絶には至っていない若者でも、性に関する知識の不足、不安解消の場がないことなどが課題として挙げられた。

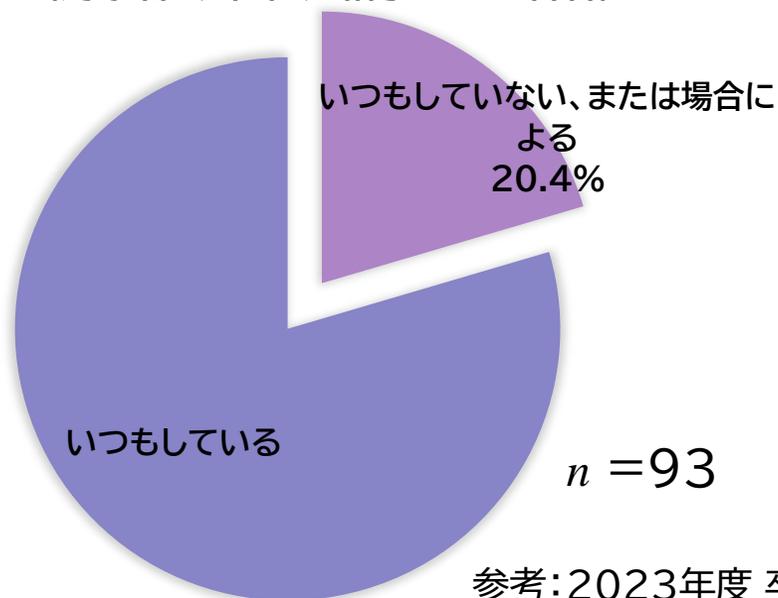
この課題を裏付ける
事実①②

② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

事実①
避妊の頻度が低い若者が約2割、避妊の正しい知識を持っていない若者も約2割存在する

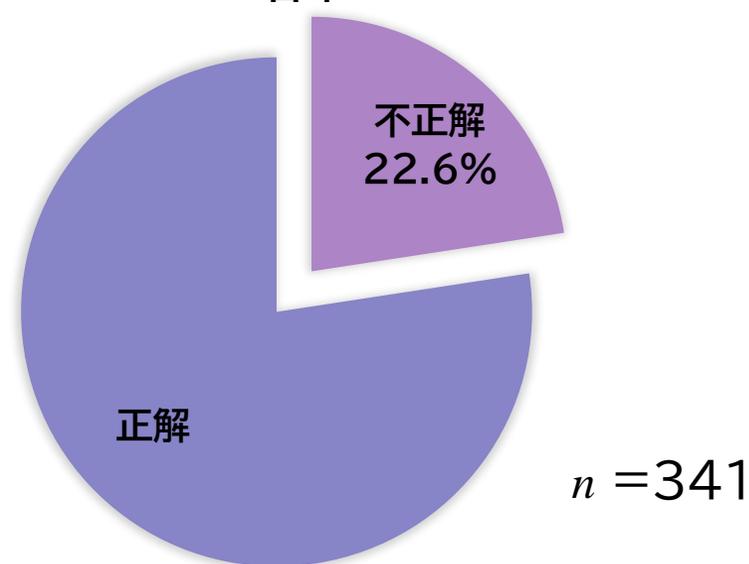
現在、性交相手がいると回答した93名のうち、「性交をするとき、避妊をしていますか?」という質問に、「場合による」「いつもしていない」と回答した若者が19名いた。

性交をするとき、
避妊をしていますか?
(対象者:現在性交相手がいる若者)



341名の若者に、「膣外射精は確実な避妊法である。」という文章が「正しい」「間違っている」「分からない」「文章の意味が分からない」の4択で選ばせたところ、不正解だった若者が77名いた。

「膣外射精は確実な避妊方法である」
正答率



② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

事実②
自分事として考える機会が少ない人はそれ以外の人より性に関する問題の正答率が低い

参考:2023年度
卒業論文での調査結果

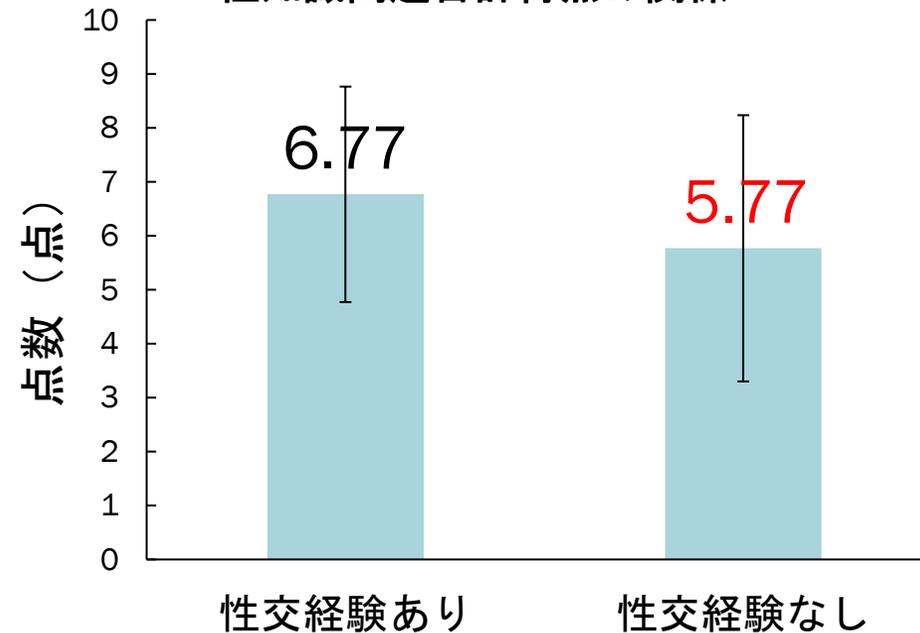
アンケート調査において、回答者全員に、日本性教育協会が作成した性に関する知識を問う正誤問題を出題した。

【出題は計6問】

- ①膣外射精(外出し)は確実な避妊方法である
- ②排卵は、いつも月経中に起こる
- ③精液が溜まりすぎると、身体に悪い影響がある
- ④クラミジアや淋病などの性感染症を治療しないと、不妊症になる(赤ちゃんができなくなる)
- ⑤ピル(経口避妊薬)の避妊成功率はきわめて高い
- ⑥性感染症にかかると、必ず自覚症状が出る

これらの回答として、「正しい」「間違っている」「分からない」「文章の意味が分からない」の4択で選んでもらい、10点満点換算で回答者の正答率を分析した。

性交経験有無と
性知識問題合計得点の関係



(エラーバーは標準偏差)
(本来は6点満点だが、10点満点に換算)

「あなたは、今までにセックス(性交)の経験がありますか。」という問いで、「ある」「ない」と答えた若者をそれぞれ、「性交経験あり」「性交経験なし」とし、正誤問題のそれぞれの平均を算出した。

すると、**性交経験なしの若者は、性交経験ありの若者よりも、点数(スコア)が低い**ということがわかった。性交の経験がない若者は、性の知識を得にくいということが考えられる。

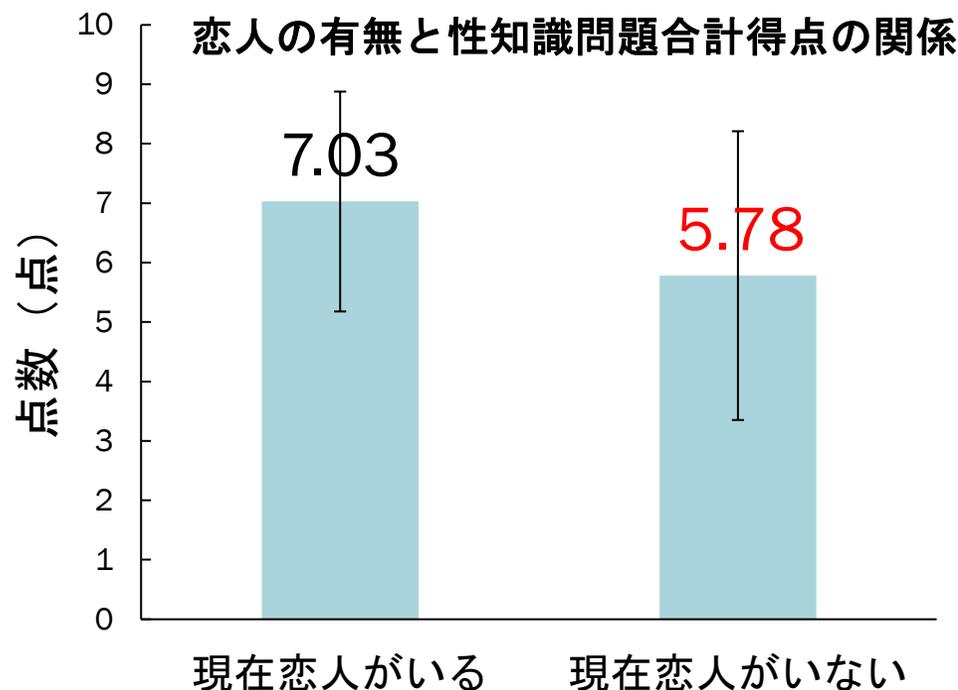
事実②つづき

② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

事実②
自分事として考える機会が少ない人はそれ以外の人より性に関する問題の正答率が低い

参考:2023年度
卒業論文での調査結果

前ページ同様、性に関する知識を問う正誤問題を出題し、10点満点換算して正答率を分析した。

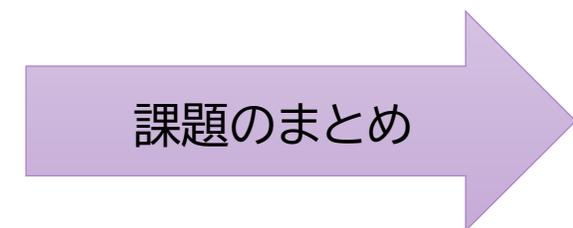


(エラーバーは標準偏差)
(本来は6点満点だが、10点満点に換算)

「あなたは、現在付き合っている恋人がいますか」という質問に対し、「いる」と回答した若者を「現在恋人がいる」、それ以外で回答した若者を「現在恋人がない」とし、正誤問題のそれぞれの平均を算出した。

すると、現在恋人がない若者は、現在恋人がいる若者よりも、点数(スコア)が低いということがわかった。

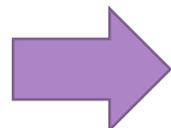
性交や避妊に関して、今まさに気をつけなければならない状態にないと、性の知識は得にくいと考えられる。



② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

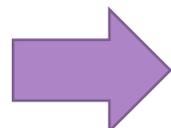
課題(まとめ)

日本の若者の避妊に関する知識・行動が不十分である



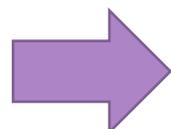
事実①

避妊の頻度が低い若者が約2割、避妊の正しい知識を持っていない若者も約2割存在する



事実②

自分事として考える機会が少ない人はそれ以外の人より性に関する問題の正答率が低い
(性交経験なしの若者は、性交経験ありの若者よりも、性に関する知識のスコアが低い)



事実③

自分事として考える機会が少ない人はそれ以外の人より性に関する問題の正答率が低い
(現在恋人がいない若者は、現在恋人がいる若者よりも、性に関する知識のスコアが低い)

この課題の原因は？

② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

以上の課題から考えられる原因は、主に①教育環境と②生活環境の2つに分けられる。

原因①教育環境

学校教育において踏み込んだ性教育が行われにくい

日本性教育協会の調査によると、大学生に「学校での性教育が役に立つと感じたか」をたずねたところ、**大学生の男女ともに全体の3割以上が「あまり役に立たないと感じた」または「ぜんぜん役に立たないと感じた」と回答した。**本来性教育は自身の生活・人生に直結するものであるにもかかわらず、「役に立たない」と感じられてしまう原因の1つとして、学習指導要領における「はどめ規定」が考えられる。

こちらは次ページで説明する。

「あなたは、いままでに学校の性教育で教わったことがら自分にとって役に立つと感じましたか。」(単位は%)

	大学生男子	大学生女子
非常に役に立つと感じた	6.1	4.1
役に立つと感じた	31.3	36.5
あまり役に立たないと感じた	29.7	30.1
ぜんぜん役に立たないと感じた	12.2	6.4
その他	20.7	22.8

参考:2017年_日本性教育協会

(補足)
「はどめ規定」

② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

原因①教育環境

学校教育において踏み込んだ性教育が行われにくい

(補足)性教育における「はどめ規定」

1998年、文部科学省の学習指導要領改訂により、学習指導要領に以下のような文言が記載され、学校教育において「性交」について教えることが難しくなった。これらはいわゆる「はどめ規定」と言われている。

- 小学校理科 「受精に至る過程は取り扱わないものとする」
- 中学校体育 「受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする」
- 高校保健体育 「生殖に関する機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする」

学習指導要領はあくまで指導の必要がある内容を示す「最低基準」に過ぎないため、各学校でその必要性があると判断すれば「はどめ規定」の内容を指導することはできるとされている。しかし、その場合は学校全体で共通理解を図り、保護者や地域の理解を得るなど留意しなければならない点が多く、結果的に踏み込んだ性教育は行いにくくなっている。

参考:文部科学省 学習指導要領
(小学校・中学校は2017年、高校は2018年告示)

原因②生活環境

② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

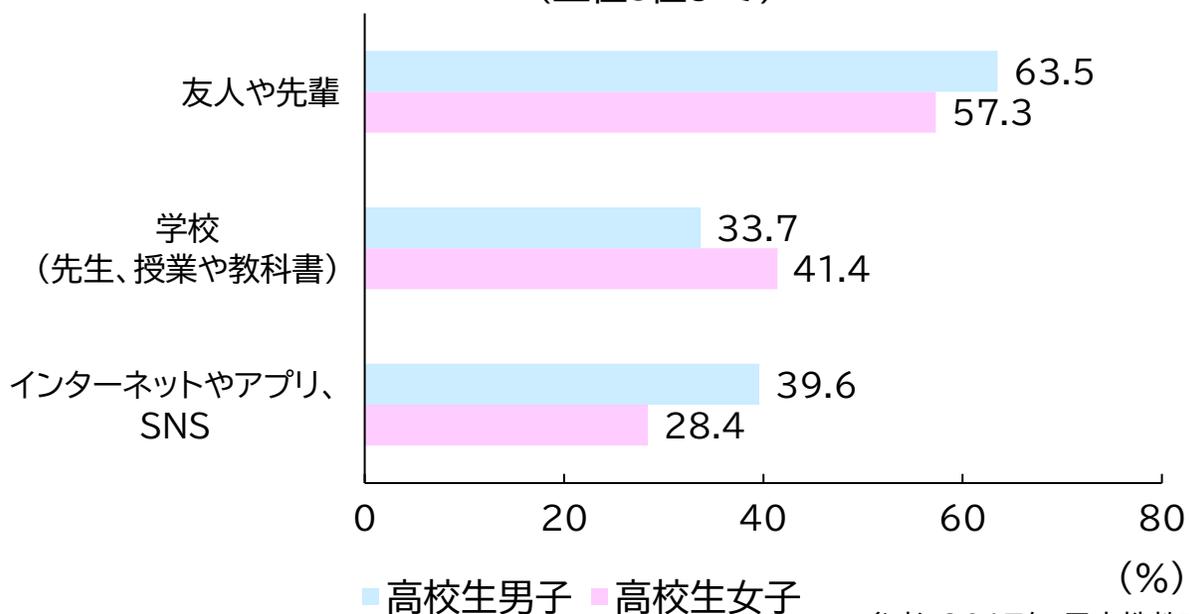
さらに、

原因② 生活環境

若者が性に関する不安を身近で話せる場所が少ない

若者が性交について知識や情報を得ている主な場所は「学校」以外で、「友人や先輩」「インターネットやアプリ、SNS」である。これらの手段は正確な情報を得られない可能性がある。

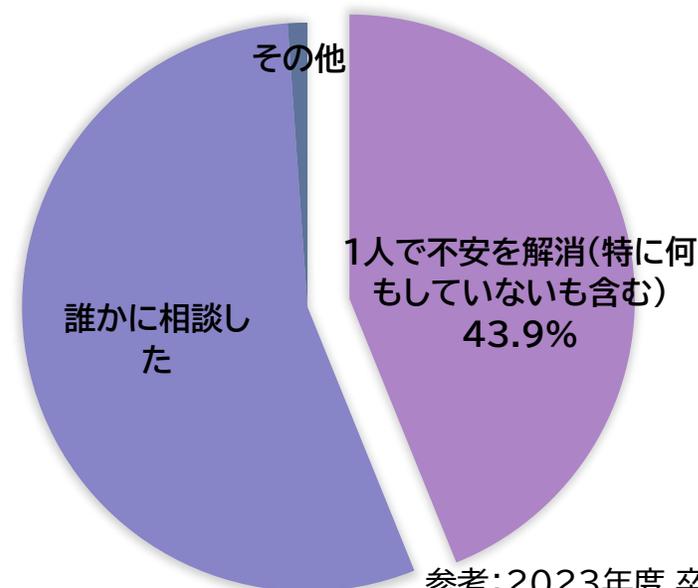
性交についてどこから知識や情報を得ていますか。
(上位3位まで)



参考: 2017年_日本性教育協会

性に関する不安を抱えた際、**自分1人で解消する若者が44%もいる**ことがわかった。これは「特に何もしていない」と回答している若者も含んでいる。このことから、若者にとって性の不安を話せる場は少ないと考えられる。

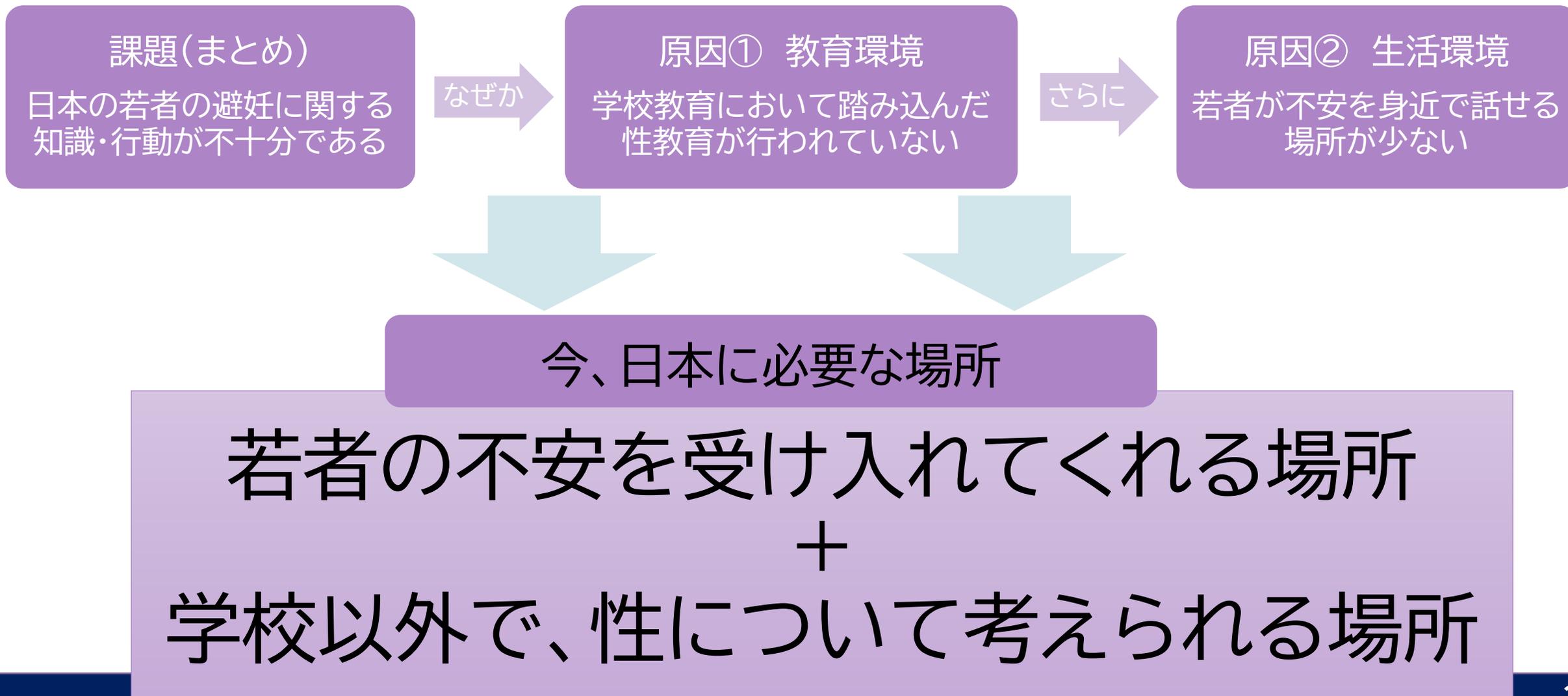
性交や避妊に関して不安に思った時、
どのように解消しましたか。



参考: 2023年度_卒業論文での調査結果

② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

若者が性教育を身近で受けられる場がほしいが、学校にははじめて規定がある



② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

今現在、若者に性教育や性に関する悩みのサポートをしている場所を分析

① 現在、若者に性教育を行う場所・時間数

性に関する内容は小学校・中学校・高等学校でそれぞれ保健体育や理科などで学ぶ。しかし、はどめ規定があるため、学習指導要領に従うと若者は実用的な必要な知識を得られない。また、中学校での性教育の授業数は、平均して3年間で8.62時間ほどであり、1年間では3時間にも満たない。他国と比較しても、日本は時間数が非常に短い(右表参照)。よって、量も質も足りない部分が多く、将来の役に立つ性教育を行えているとは言い難い。

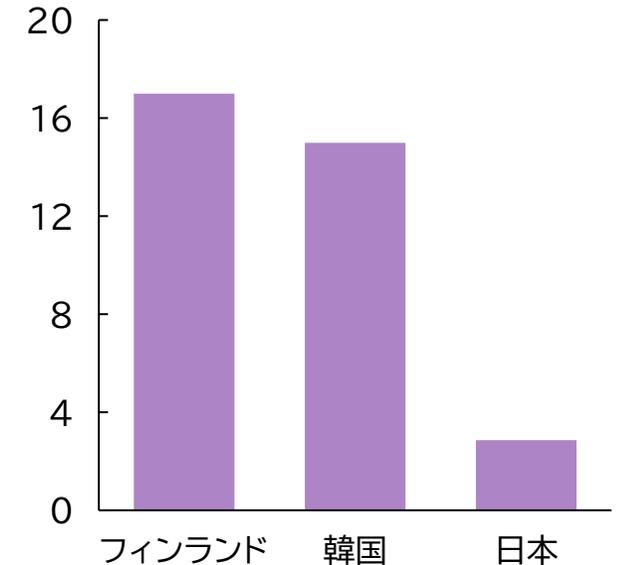
② 現在、若者の悩みや不安を受け入れてくれる人・場所

性に関する悩みや不安を、気軽に話に行ける場はほとんどない。現状として性に関する相談をしない若者が非常に多い。特に病院は敷居が高く、気軽に悩みを相談しに行ける場所にはなっていない。

現在、東京都で「わかさぽ」、埼玉県で「たんぽぽユースクリニック」、神奈川県で「藤沢女性のクリニックもんま」など、各地方ごとに若者向けのクリニックを定期的で開催しており、これらが発展すれば、病院よりも敷居の低い相談場所になると考えられる。

性に関する教育・サポートは、
日本ではタブー視されている分野であることがわかる

中学校の性教育の時間数(単位:時間)



参考:2017年
橋本紀子、茂木輝順らによる調査

他国では
どんな性教育?

② 若者の性に関する現状(市場と競合分析)

スウェーデン発祥のユースクリニック(Youth Clinic)



- 10~20代の若者の悩み相談を専門家が受け付けてくれるクリニック
- 9割の若者が利用したことがある
- スウェーデン自体が、性教育先進国

他にも オーストラリアのユースクリニック



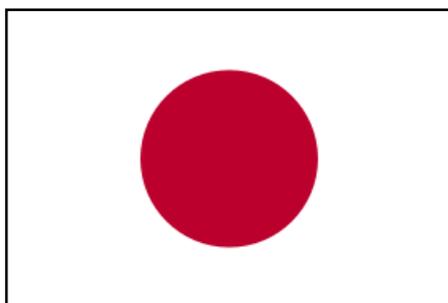
- 平日9:00~17:00であいている
- 予約が必要
- 遠隔で医師に相談することも可能

他にも カナダのユースクリニック



- 12~24歳が対象
- 若者が健康と社会的ケアを受けるための施設
- 当日のカウンセリングは先着順

日本のユースクリニックは…



- 知名度が低い
- 婦人科のある病院に併設されていることが多い
- 足を運ぶハードルが高く、特に男性は行きづらい
- イベントとして開催しているユースクリニックや、オンライン相談のみのユースクリニックも存在する

→日本の若者向けに
形態を変えて設立する必要がある

(補足)
日本での一例

こちらの資料は情報の保護の為
掲載を控えさせていただきます。

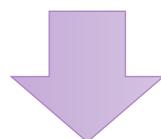
③プロジェクトモデル

③ プロジェクトモデル

今必要なのは…
若者の不安を受け入れてくれる場所
+
学校以外で、性について考えられる場所



日本にもユースクリニックがほしい！
しかし日本では知名度が低く、ハードルが高い



カフェと融合してみても？



③ プロジェクトモデル

ユースクリニックと「カフェ」の融合 「ゆーすふる」

【概要】

性を身近に、オープンに考えられる環境を提供する場として開設する。ユース世代が役に立った(useful)と思ってもらえるような場所にしたいので「ゆーすふる」と名付けた。

【場所：カフェ】

男女問わず来店しやすく、検査や治療を行わないため、カフェついでに相談ができる。

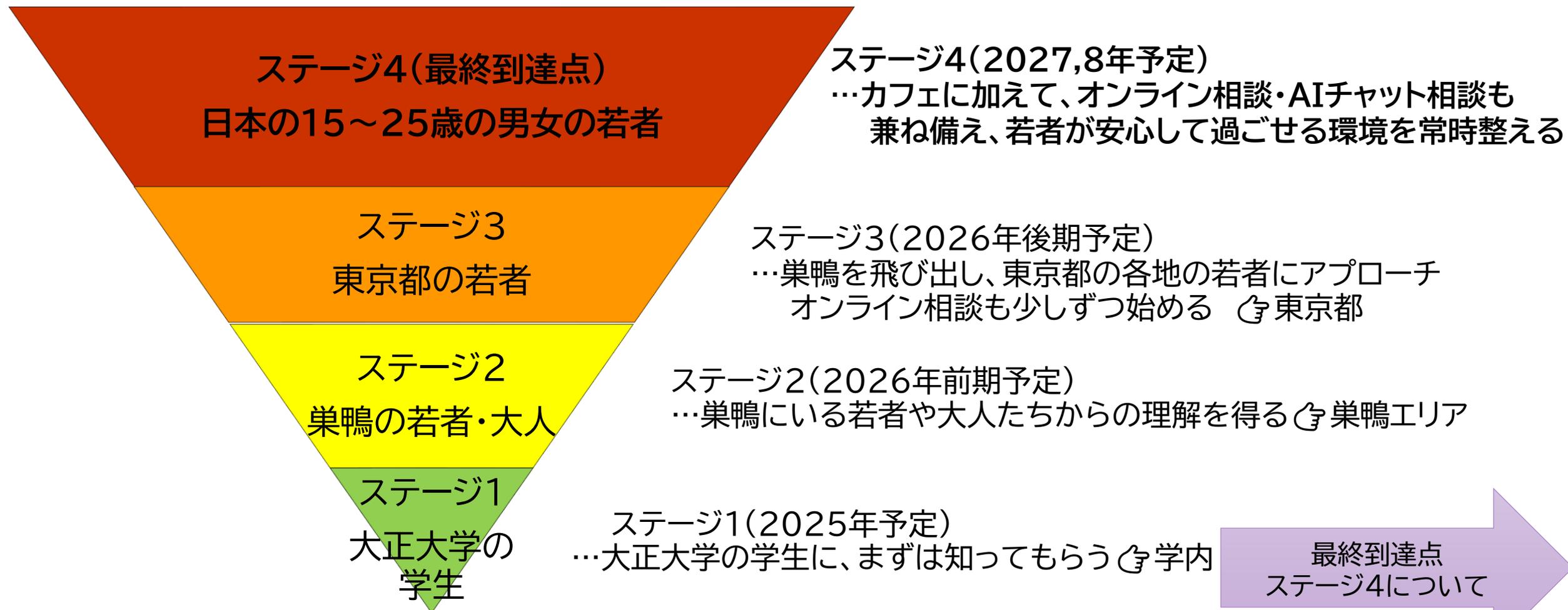
ただし、日本ではユースクリニックの知名度が低く、一気に広めることは難しい。そのため、段階を経て本プロジェクトを進めていく。

段階別
ゆーすふるのあり方



③ プロジェクトモデル

まずは段階的にメインターゲットごとに、「ゆるすふる」のあり方を計画した
【ステージ1からスタートし、ステージ4を目指す】



③ プロジェクトモデル

ステージ4 ユースクリニック×カフェ「ゆーすふる」の最終到達点

2027,8年予定

【メインターゲット：
日本の15～25歳の男女の若者】

理由① 性行動が現実みを増す年代だから

- ・大学生が、初めて性交した年齢の最頻値は男性18歳、女性19歳（日本性教育協会より）
- ・高校生の頃からユースクリニック×カフェの存在を知ってもらう

理由② 特に、高校卒業～20代前半への支援が手薄だから

- ・東京版ユースクリニック「わかさぽ」は10代が対象
- ・学生、社会人が入り混じっているため、支援が行き届きにくい



ステージ4について
(つづき)

③ プロジェクトモデル

ステージ4【形態：カフェを主とし、オンライン・チャットでの相談もできるようにする】

性について考えるきっかけを

ユースクリニック×カフェ
「ゆーすふる」

思いを話せる安心感を

オンライン相談
「リモートゆーすふる」

いつでも気軽に質問を

AIチャット相談
「ゆあチャット
byゆーすふる」

③ プロジェクトモデル

	ユースクリニック×カフェ「ゆーすふる」	オンライン相談「リモートゆーすふる」	AIチャット相談「ゆあチャット」
形態	対面で相談でき、性について考えられるきっかけの場	オンラインで専門家に相談できる場	カフェ・オンライン相談の内容を学習したAIに気軽に質問できる場
場所	専門家のいるユースクリニック・カフェスペースとしても役割を果たす施設を、常設で作る。 (場所は日本全国各都道府県に設置。若者が来やすい駅から近い場所であることは必須)	ビデオ通話ができるインターネット環境。 専門家は、カフェのスペースからでも、自宅からリモートでも可能。	場所は問わず、相談者がスマホで相談。
日時	常設のため、基本週4～5日。 営業時間は12:00～20:00のように、遅い時間にも空いているようにする。	カフェを開放している時間にオンライン相談も開放する。予約制。	24時間対応。
利点	<ul style="list-style-type: none"> ・特に相談がない人も、性の知識を得るために来られる ・専門家に対面で会話をして相談ができる ・恋人同士など、何人かで相談に行くこともできる ・必要であれば病院など専門機関に繋ぐことができる ・普段からカフェに来ていれば、顔見知りの専門家に話ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔出しなしで相談ができる ・専門家の顔は見られるので、安心して相談することができる ・必要であればカフェで対面相談に繋がられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIにカフェやオンライン相談の内容を学ばせ、適切な回答をしてくれる ・顔出しなし、匿名で相談ができる ・いつでもスマホで気軽に相談ができる
懸念点	・実際にカフェに行かなければならない	・いたずらのような相談を受ける可能性がある	<ul style="list-style-type: none"> ・学習させ使えるようになるまで時間がかかる ・あくまで一般論の回答を出すため、個別の対応がしきれない

③ プロジェクトモデル



利用者の流れ

何か悩みを相談したいと思った若者は、3つの相談方法が選べるようになっている。よって、手軽さと安心感があり、相談者に寄り添った対応ができる。それぞれのメリット・デメリットを、補完し合える「ゆーすふる」の形態を目標としている。

カフェ「ゆーすふる」で相談

こんなときにおすすめ…

- 対面で専門家に相談したいとき
- 支援物資をもらいたいとき

- 普段から繋がりがあれば相談しやすい
- 恋人同士など、何人かで相談に行くこともできる
- 必要であれば病院など専門機関に繋ぐことができる

オンライン「リモートゆーすふる」で相談

こんなときにおすすめ…

- カフェには行けないけど、専門家に話を聞きたいとき
- 顔出しなしで相談ができる
- 専門家の顔は見られるので、安心して相談することができる
- 必要であればカフェで対面相談に繋がられる

AIチャット「ゆあチャット」で相談

こんなときにおすすめ…

- 緊急性が高く、すぐ相談したいとき
- ちょっとした疑問を聞きたいとき
- 顔出しなし、匿名で相談ができる
- コアな質問であればオンライン相談に移行できる

③ プロジェクトモデル

ステージ4 ユースクリニック×カフェ「ゆーすふる」の最終到達点

2027,8年予定

【実施内容：カフェにおける企画例】

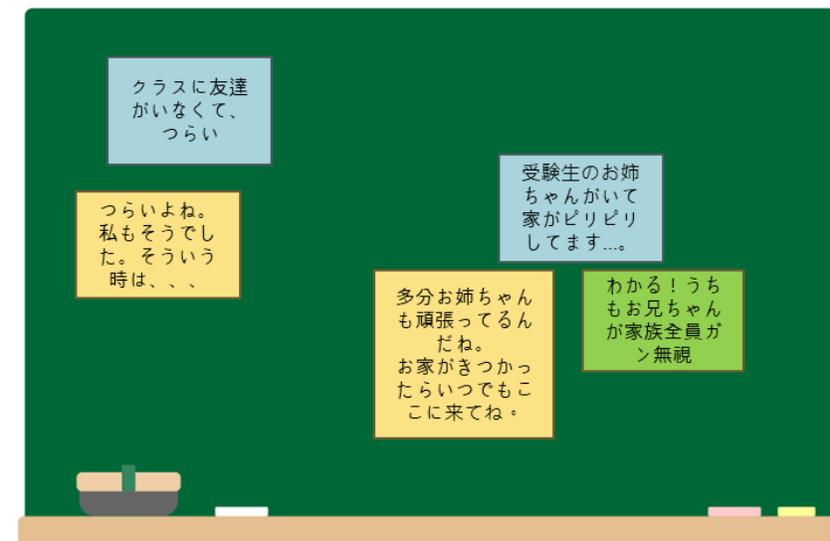
- 性について考えるきっかけになるワーク **「Tryシート」**
段階をおって知識を深めていける。1つ知識を身につけて帰ってもらえることができる。
- **ゆーすのつぶやきコーナー**
若者が悩みや話したい事を書き、それに専門家や来店した大人が返信をする。カフェ全体のオープンな雰囲気を作る。
- **避妊具や生理用品、性教育の本の展示**
コンドームやナプキン、タンポンなどに触れ、装着の練習もできるブースを用意する。

Tryシート

考えてみよう！
お店にある本や、専門家
スタッフとお話してもい
いよ！

友達に「同性の子が好き
なんだ」と言われたら、なん
て返す？

取り組んでくれた方は
〇%割引！

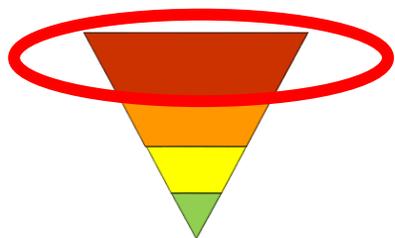


ステージ4について
(つづき)

③ プロジェクトモデル

ステージ4 ユースクリニック×カフェ「ゆーすふる」の最終到達点

2027,8年予定 【カフェの店内の流れ】



来店
お席に着きます



(靴を脱ぐタイプの「ゆーすふる」
開設も検討中)

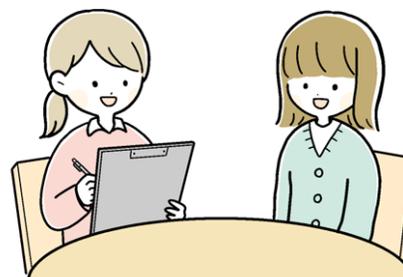
目的は？(複数可)
カフェ利用
クリニック利用(個室・お席)

内容をよかったら教えてください。

ご注文	HOT Or ICE	個数

質問&注文票を記入

席には質問票・注文票が置いてあり、これに答えます



クリニック利用

希望すれば、専門家のスタッフと個別ブースで相談することができます



カフェ利用

お食事をしながら、Tryシートに取り組んだり、つぶやきコーナーに投稿したりできます

既存の施設・コンテンツとの差異

③ プロジェクトモデル

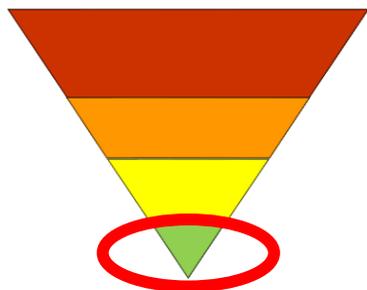
他の若者向け施設・コンテンツとの比較

	ユースクリニック×カフェ 「ゆーすふる」(ステージ4)	藤沢女性のクリニック もんま	とうきょうヘルスサ ポート(わかさぼ)	わたカフェ
運営団体	要相談	病院	東京都	公益財団法人プラン・インターナ ショナル・ジャパン
対象者	15～25歳の男女	小学生～24歳	都内在住・在学・在勤の 中学生以上の10代	15～24歳の女子
場所	要相談(カフェ)	藤沢	渋谷	池袋
形態	・ユースクリニックとカフェの両面を 活かした施設(オンライン相談や チャット相談も視野にあり) ・常設化目標	・ユースクリニックは婦人科 に併設 ・オープンユースクリニック は月1回	・対面相談は週3回 ・電話・メール相談あり	・相談員に相談可の若者の居場 所 ・週4回
利点	・カフェのため誰でも気軽に足を運べ る ・不安がある人、ない人ともに過ごし やすい環境である	・病院との連携が取りやす い ・常に決まった専門家がい る	・相談できる場が多い ・渋谷駅近くで立地が良 い	・お金がかからない ・家のような落ち着いた空間
懸念点	・運営資金の調達 ・周囲の理解が得られるのに時間か かかる ・カフェの代金に関しては要相談	・男性が行きづらい	・20歳以上の若者は行け ない	・男性が行けない

③ プロジェクトモデル

続いて、ステージ1～3の計画案を順に提示する

ステージ1 2025年予定



【メインターゲット:大正大学の学生】 ※学内での取組

私の卒業論文のアンケート調査に協力してくださった約6割が大正大学の学生であった。まずは、その層からユースクリニックや性の知識を広めていきたい。

【形態】例として2点取り上げる。

① 6月の鴨台祭にてユースクリニック×カフェを開催

6月に開催される鴨台祭で教室企画として参加する。お菓子や飲み物を用意してゆっくりくつろいでもらうとともに、生理用品や避妊具・性に関する本の展示を見てもらう。

② 毎月の鴨台食堂(大学レストラン)での不定期のイベント形式

7号館8階の鴨台食堂の営業時間外(平日15時以降)に場所をお借りして開催。お菓子と飲み物を用意し、授業終わりにふらっと立ち寄れる場所を作る。

【プロモーション計画】

- ・SNSにて宣伝
- ・T-Poと在学生アプリで配信してもらう
- ・①鴨台祭 ☞ 当日に呼び込み
- ・②鴨台食堂 ☞ 授業時間の5分をお借りして、チラシを配り宣伝をさせていただく

ステージ2について

ステージ1では、彩の国思春期研究会に全面的なサポート(マンパワー・物資の支援)をしていただけたことになりました！

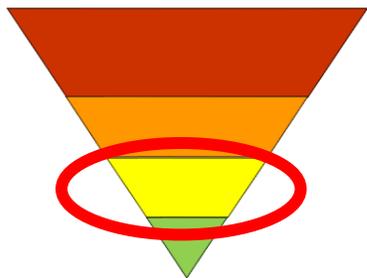
③ プロジェクトモデル

ステージ 2

【メインターゲット: 巣鴨の若者・大人】 ※学内→地域(巣鴨エリア)を巻き込んだ取組への展開

2026年前期予定

大正大学と馴染みのある巣鴨の街で開催することで、大正大学生だけでなく、高校生や大人たちにも性教育に対する理解を深めてほしい。そのため、継続的な開催が必要となる。



【形態】イベント形式。月に1回の定期開催も視野に入れる。

① プロダクトスタジオⅤ

開催は土日祝の13～17時。中がガラス張りのため、何をしているのかが分かりやすい。お菓子や飲み物を用意して、展示や専門医によるプチ講演会を行う。

② ガモール志學亭と裏のプロダクトスタジオⅡ

カフェとして常連さんも多いガモール志學亭さんに協力をいただき、裏のスペースのプロダクトスタジオⅡをユースクリニック用として使わせていただく。平日の13～18時開催とし、カフェに来店された方に、見学としてユースクリニックを体感してもらう。

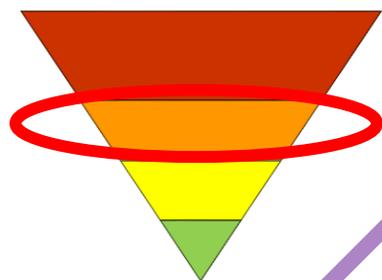
【プロモーション計画】

- ・SNSにて宣伝
- ・T-Poと大正大学アプリで在校生・受験生・卒業生向けに配信してもらう
- ・豊島区に後援を申請する
- ・巣鴨商店街にチラシを置いてもらう
- ・巣鴨商店街の近くの学校(淑徳巣鴨中学高等学校、区立巣鴨北中学校、十文字中学・高等学校)へチラシ配布をしてもらう

ステージ3について

③ プロジェクトモデル

ステージ3 2026年後期予定



【メインターゲット:東京都の若者】 ※地域(巣鴨エリア)→エリアを拡大した展開
 巣鴨以外の東京都各地でカフェを開催し、認知度を高めていく。

【形態:出張ユースクリニック×カフェ】

場所の一例

・表参道駅A2出口から徒歩2分の「セーヴルカフェ表参道店」のレンタルスペースにて、ユースクリニック×カフェ「ゆーすふる」を開催。13:00～18:00でカフェと同時並行で開催することで、一般のカフェ利用者にもユースクリニックを体感してもらえらる。

<https://shopcounter.jp/>

↑ショップカウンターHPにて検索。開催の可否はスペースオーナーに確認必須。

【プロモーション計画】

- ・SNSにて宣伝
- ・東京都の後援を申請する
- ・所属団体の彩の国思春期研究会にて、宣伝のメールを流してもらう

🔊 検討中 🔊

オンライン相談も
 開設検討中。予約
 制にして、カフェを
 開放している時間
 に行く。

ステージ1,2,3を経てステージ4の到達を目指す

④運営計画

④運営計画

④ 運営計画

まずは、

必要な設備：カフェスペース

ステージ1 鴨台祭での教室スペース・鴨台食堂

ステージ2 巣鴨商店街内 プロダクトスタジオV・ガモール志學亭とプロダクトスタジオII

ステージ3 セーヴルカフェ表参道店などの東京都のカフェレンタルスペース

ステージ4 東京都内に常設のユースクリニック×カフェを開設

条件

- ・若者が足を運びやすい場所  駅近、学校近くなど
- ・カフェとして機能する場所  飲食ができる場所
- ・(できれば)靴を脱いであがることができ、個室がある場所

④ 運営計画

次に、

必要な人材：

・産婦人科医、助産師、看護師などの専門家 2名以上

性に関する相談を受け付けられる専門家が必ず2人は必要。できたらソーシャルワーカーや心理士など、若者の性以外の不安も受け付けられる専門家がほしい。

・事前準備、当日参加をしてくれるボランティア 男女2名ずつ以上

荷物準備、ポスターなどの資料作り、当日の荷物持ち出し・設置、会場の受付、誘導、お茶菓子を出す係など。男女ともにいたほうが参加者が安心して利用できる。

・実際にカフェを利用して開催する場合は、**カフェのキッチン・ホール担当**が必要

【どのように協力を得るか】

- ・日本家族計画協会、日本性教育協会、“人間と性”教育研究協議会などの団体からの支援を得る
- ・私自身がボランティア・セミナーに積極的に参加し人脈を広げる
- ・イベントごとにボランティアをSNS・彩の国思春期研究会で募集する

ステージ1では、彩の国思春期研究会に全面的なサポートをしていただけになりました！

④ 運営計画

プロジェクトを行うための予算

	ステージ1 大正大学の学生向け	ステージ2 巣鴨の若者・大人向け	ステージ3 東京都の若者向け	ステージ4 日本の15～25歳男女の 若者向け
施設費	0円 大学内でできるため	0円 大学施設でできるため	53,900円～ セーヴルカフェ表参道店の レンタルスペースの場合	要検討
絵本・本・かるたなどの資料	35,000円 20冊購入想定	2,000円 10冊追加購入想定	2,000円 10冊追加購入想定	10,000円 随時追加
避妊具や生理用品などの展示	15,000円 寄付がない場合	5,000円 寄付がない場合	5,000円 寄付がない場合	5,000円 寄付がない場合
お菓子・飲み物代	4,000円	4,000円 プロダクトスタジオV の場合	0円 セーヴルカフェ表参道店の レンタルスペースの場合	カフェ運営のため 要検討
チラシ等印刷代	5,000円	10,000円	5,000円	5,000円
専門家・ボランティアの方の交通費	9,000円 6名参加の想定	9,000円 6名参加の想定	9,000円 6名参加の想定	ボランティアか時給か 要検討
合計	68,000円	48,000円	92,900円	未定
補足	初期費用も含まれるため 出費がかさむ	—	—	カフェ運営・オンライン相 談・AIチャット相談も込み で要検討

④ 運営計画

前ページの予算を踏まえ、

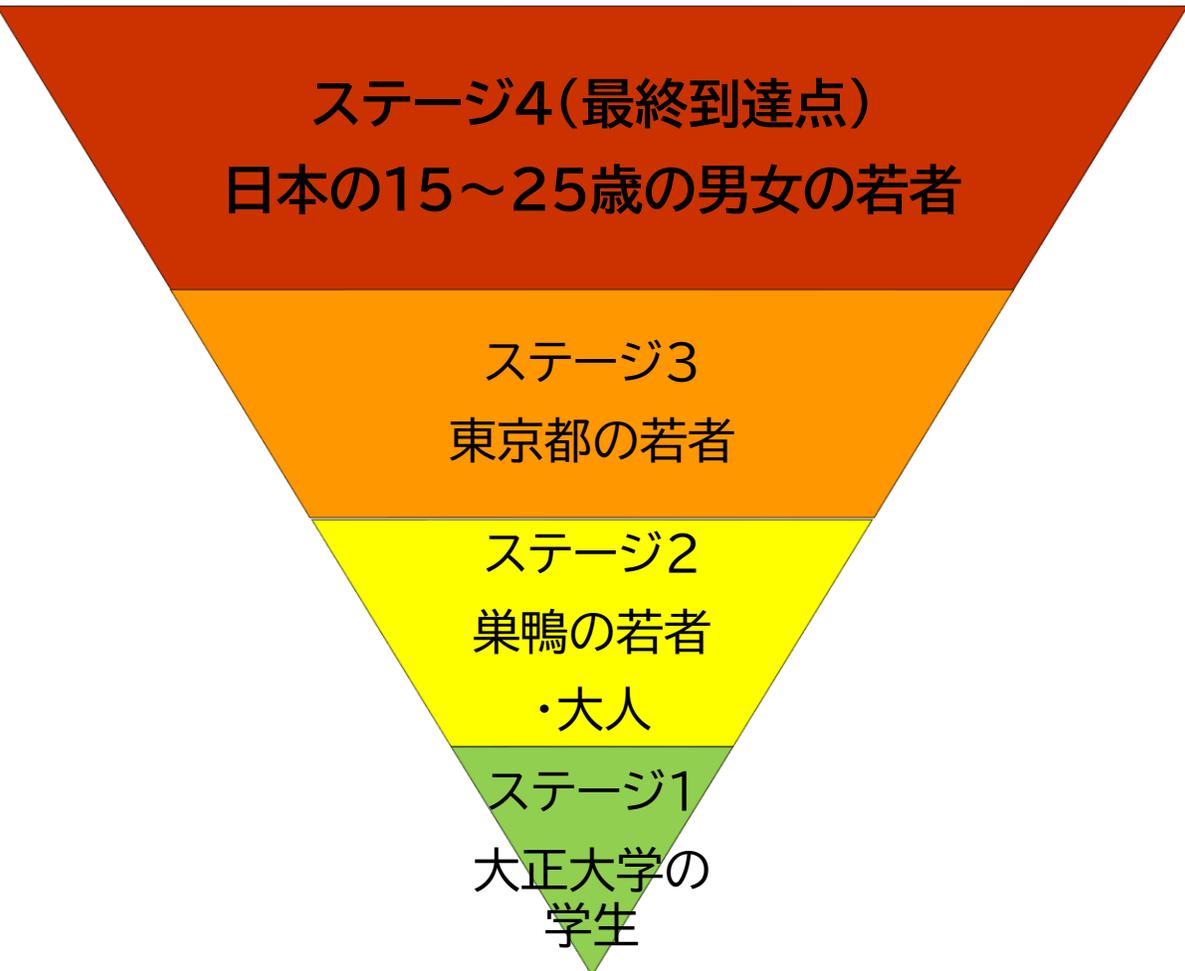
プロジェクトを行うための財源

- TAIS PITCHコンテストの活動支援金サポート(最大10万円)
- 一般社団法人ソウレッジの「ユースクリニックサポート基金」の活動奨励金 (上限15万円)
- 日本財団の助成プログラム (事業費の80%以内)
- 継続して行う段階の際は、クラウドファンディングなどの募金
- 支援物資 (避妊具など) は企業からの寄付
例) オカモト株式会社、ジェクス株式会社 等

プロジェクト全体の
スケジュール

⑤ 運営計画

そして、**全体のスケジュール**



ステージ4(最終到達点)
日本の15~25歳の男女の若者

ステージ3
東京都の若者

ステージ2
巣鴨の若者
・大人

ステージ1
大正大学の
学生

2025年2月 TAIS PITCHコンテスト本選出場

まずはステージ1から

2025年6月 第1回ユースクリニック×カフェ 鴨台祭にて開催

7月 学生が夏休みに入る前に鴨台食堂にて開催

10月~11月 夏休み明けに鴨台食堂にて開催

ステージ2

2026年1月~3月 プロダクトスタジオVにて開催

4月~6月 ガモール志學亭とプロダクトスタジオIIにて開催

ステージ3

2026年9月 セーヴルカフェ表参道店のレンタルスペースにて開催

オンライン相談も開設予定

以降、東京各地で出張ユースクリニックを開催

ステージ4

2027,8年 常設化予定、オンライン相談・AIチャット相談も完備

⑤その他

⑤ その他

プロジェクトの課題について

1. 性教育の分野には「タブー視」のリスクをどのように対処するか

現代の日本では、性教育をすること自体に理解が得られにくい。そして、ユースクリニックは主流ではなく、かつ実績がない。特に、「カフェの開放的な空間で性に関して触れやすい環境を作ること」が大きな壁。

①実際の性教育の現場で、現状を把握する

②行政からの協力を得る

③お客様にはプライバシーに関わる事項を外に漏らさないように誓約書を書いてもらう

④イベントの際に、来店してくれた人の感想・要望をアンケートで聞き、ニーズにこたえる

など

⑤ その他

プロジェクトの課題について

2. どうしたら若者に来てもらえるのか

① 立地

- ・ステージ1の鴨台祭では人の目につきやすい室外でテントでの出店、ステージ3では駅に近い場所で開催する。

② カフェ以外の仕掛けを作る

- ・最終的にはカフェとしても成立する施設にしたい。
- ・しかし、イベント形式の場合はカフェの他に、パーソナルカラー診断やネイル、献血など、若者が足を運びたくなる企画を一緒に開催すれば集客が見込めるのではないか。

③ 次回の開催日や場所を必ず伝える

- ・1日のイベントだけで終わらせるのではなく、本当に相談したい人が安心して相談に来られる日がいつなのかを必ず伝える。

⑤ その他

現在の日本では性教育の分野はタブーであり、
興味のない人は正しい知識を得ることすらできません。

どんな人でも、性の知識があれば、必ずお守りになります。
すべての人が、安心して人生の選択肢ができるよう
この活動を進めていきます。

大正大学心理社会学部人間科学科

令和5年度卒業生 長田のぞみ



**MAKE
YOUR
UNIVERSE.**

一緒だからつくれる世界を。